

朝の礼拝

聖書 創世記 9章8-13節（旧約聖書11頁）

1 初めに、神は天地を創造された。2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3 神は言われた。

「光あれ。」

こうして、光があった。4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

闇と光

神様が世界を造られる前、この地上は混沌で、闇の世界だったとありました。そこで神様は光を造られました。でも闇は残り、夜と名付けられました。一日に夜があるように、この世の中には闇の部分があることを物語っています。

神様は「光」を造られましたが、それは太陽と月、そして星が造られたのは四日目ですから、自然の光ではありません。もちろん電気など人の手による人工の光でもありません。神様は何のために光を造られたのでしょうか。どんな光なのでしょうか。

最後に「夕べがあり、朝があった」とありました。私たちは一日の始まりを朝と考えますが、聖書では一日は夕べから始まります。昼の生活を終え、思い煩いに心乱れる夕べの時にこそ、神様が共におられると感じ始める時でした。

夜のとばりが深まるにつれて、祈る人は神様が共に苦しみ、ともし火のように心の闇を照らし、心身共に休ませて下さると感謝していました。そして十字架のイエスこそ、この世の闇を照らす光として来られた救い主と信じ、その誕生を祝うようになったのです。

(しばらく黙祷しましょう)

祈禱 祈りましょう

わたしたちを愛し、励まされる主よ。預言者イザヤは「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた」と言っています。これまで私たちは豊かで平和な日々を過ごしていると思っていました。でもそうでないことを身近で感じるようになりました。災害で被災された人たち、感染症と向き合う人たち、貧しさと闘う人たち、私たちの社会には先の見えない闇の部分があります。しかし、あなたが共にいて、この世の光として行く道を照らして下さい。どうか喜びと希望をもってクリスマスを迎えることができますようにお導き下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活を守り、自ら学び、共に学び合い成長させて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。アーメン